



中西だいすけ



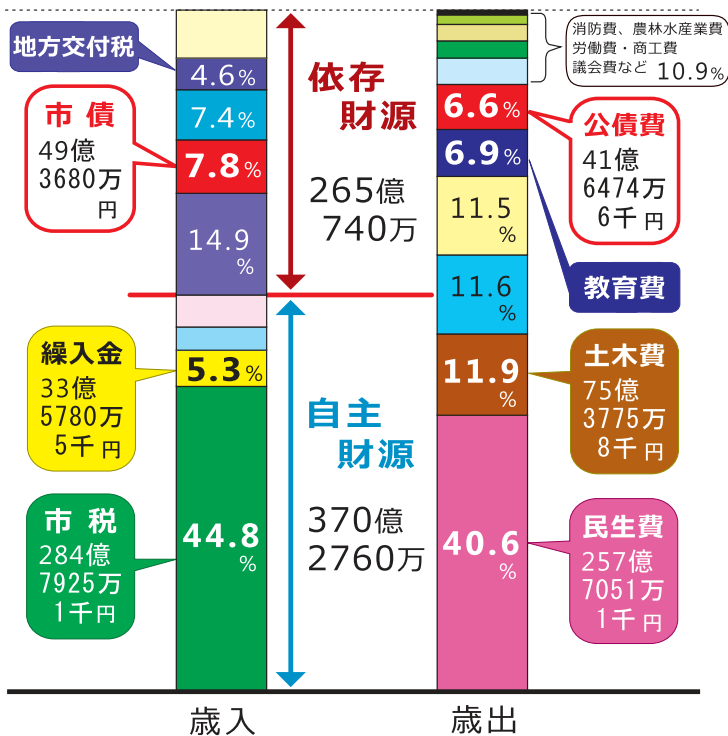
発行者：中西大輔 鈴鹿市南若松町296-2 TEL&FAX：368-1110

<http://www.daisuke-nakanishi.net/> エメール daisuke.nakanishi@gmail.com

平成30年予算と施政方針について

平成30年度鈴鹿市当初予算

総額：635億3500万円



この予算をどう見るの？

歳入で気になる点

- 繰入金 ... 財政調整基金から25億円の繰り入れで、残額が右肩下がり。
- 市債 ... 返済額(公債費)より借入額が増え、総額も増えている。
- 地方交付税 ... 全額出されていないので、臨時財政対策債を発行しているけれど、国で減額の話が出ている。
- 補助金 ... 14.9%の国庫補助金、7.4%県補助金があるけれども、どちらも財政状況は厳しい。

歳出で気になる点

- 財源のあては？
a) 税収増、b) 行財政改革、c) 借金 d) 貯金取り崩し、がありますが、c)とd)に頼りすぎでは？
- 行財政改革について
ここ数年で、中学校給食、エアコン設置、子ども医療費助成対象拡大など(これらで年約10億円)をはじめとして、民生費などでも使う金額が増えていますが、事業の精査が進んでいないのでは
- 将来にある課題
a) 今ある学校などの公共施設や、道路や上下水道などのインフラをどのように維持していくのか → 公共施設マネジメント
b) 高齢化、c) 人口減少
d) 税収の減少

よい状況と考えません!

過去、いろいろな課題を議会活動で指摘していますが、危機意識が低いと考え

ています。今は帳尻があっても、数年後に財政が厳しくなるとすれば、それは今の政治の責任ではないでしょうか。

施政方針に対する代表質問

今回で2回目となる代表質問でした。いつも、市長与党、野党のような考え方ではなく、市政に対して、是は是、非は非として中立的な立場で臨み、質問を構成しています。

ポイントは、末松市長二期目の最終年でもあり、二期目の総括に対する意識を軸に置き、財政についての考えや、地域について、子ども政策について問いました。

これまでの成果について、人口動態はどうなっているのか、子どもの学力向上の成果は、市債と基金の状況は、支出削減の成果は。「地域」という言葉が多用されているが、どのように地域を考えているのか。政策ごとの連携が図られているのか。

市長 ピーク時と比較して人口は減少。学力は全国平均と徐々に縮まっている。市債残高は約443億円、基金残高は総額で約114億円(H28)。地域は「小学校区」を基本、地域づくり推進本部で連携、「地域」の考えを整える。人材育成基本方針に基づき、人材育成と組織マネジメントの強化に取り組む。

国も三重県も財政が厳しいがどう考えているのか。財政規律の緩みがあると危惧。現在のような財政運営が持続可能なものと考えているのか。市の財政状況や行政コスト情報の開示について、中学生でもわかる形で公開すべきと考えるが、市長の財政に対する考えは。

市長 非常に厳しいと認識。歳入で、受益者負担や補助金の見直し、税外収入の確保などを行う。トータルマネジメントを確立させ、持続可能で健全な財政運営を行う。データに基づき、わかりやすい形で状況を示す。将来に向けて過度な財政負担ができないよう、財政規律を意識する。

子ども関連政策について、子育て支援はすべての子どもに等しくあるべきではないか。中高生世代への支援について、青少年施策の議論は。子ども政策の軸となる考え、子ども条例の制定を視野に入れ、子ども政策の整理を行うべきではないか。

市長 社会経済状況の変化に対応して、子どもたちが健やかに、保護者が子育てしやすいように、保健、福祉、教育、地域振興等の各分野が連携して支援する施策を考える。家庭、学校、地域などの健全育成ネットワークを活かして青少年の育成を図る。総合計画に沿い、施策を展開していく。

そつなく答弁はまとめられているけれど、熱い思いを感じられなかったように思います。